

愛知県公立大学法人
平成21年度業務実績に関する評価結果

平成22年9月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

全体評価

- 1 評価結果と判断理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 全体評価に当たって考慮した事項
 - (1) 「自主・自律的な大学運営の実現」・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 「質の高い教育・研究の推進」・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 「地域連携の強化」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・ 4

大項目評価

- 1 業務運営の改善及び効率化に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 6
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 財務内容の改善に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 7
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 9
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・ 9

4	その他業務運営に関する項目	
(1)	評価結果	10
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
	ア 特筆すべき項目[評価]	10
	イ 遅れている項目[評価]	10
	ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	10
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	10
5	大学の教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	11
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
	ア 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	12
	イ 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	13
	ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	13
(3)	進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	15

参考資料

	愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領	18
	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	
	1 県立大学	
	(1) 小項目進捗状況	21
	(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	ア 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	21
	イ 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	22
	ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	22
	2 芸術大学	
	(1) 小項目進捗状況	24
	(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	ア 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	24
	イ 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	24
	ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	24

「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」(後掲)に基づき、次のとおり結果をまとめた。

なお、法人化3年目の評価として、過年度の評価で指摘した事項の改善状況も確認しつつ、中期計画の中盤に向け、6年間の計画に対する進捗状況や業務の達成状況の確認も含め評価作業を行った。

全体評価

1 評価結果と判断理由

項 目	ラ ン ク				
	S	A	B	C	D
業務運営の改善及び効率化(P5)			○		
財務内容の改善(P7)			○		
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供(P9)		○			
その他業務運営 (P10)		○			

ランク

- S 特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
- A 順調に実施している。(すべて ~)
- B おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
- C 十分に実施できていない。(~ が9割未満)
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

項 目	事業の外形的・客観的な進捗状況
大学の教育研究等の質の向上(P11)	おおむね順調に実施していることを確認



昨年度の評価結果を踏まえ、指摘事項の改善に取り組むとともに、中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向け、

中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

なお、平成21年度に実施した県立大学と看護大学の統合、各大学への大学院博士課程の設置など大学の運営上の課題が山積する中、年度計画の達成に向け、真摯に取り組み、着実な実績をあげていることを評価委員会として積極的に評価する。

(参考)平成20年度評価
 昨年度の評価結果を踏まえ、指摘事項の改善に取り組むとともに、中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向け、中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。
 なお、平成21年度に予定されている県立大学と看護大学の統合を始め、各大学への大学院博士後期課程の設置に向け、教職員が共に真摯に取り組み、実現させようとする努力に対し、評価委員会として積極的に評価する。

2 全体評価に当たって考慮した事項 < > は中期計画の小項目評価の番号
 中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向けた取組を次のとおり確認し、積極的に評価した。

(1)「自主・自律的な大学運営の実現」

○ 特筆すべき項目(評価)

<210> 外部研究資金・自己収入：学生納付金の納入率の向上(P7)

遅れている項目(評価)

<198> 人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築(P6)

<215> 経費の抑制：アウトソーシングの可能性の検討(P7)

(2)「質の高い教育・研究の推進」

○ 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

< 3 > 教育：大学間教員相互派遣による教養科目の充実

【2大学共通】(P13、P22、P24)

< 18 > 教育：入学者選抜方法の改善

【芸術大学】(P12、P24)

< 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】【芸術大学】(P12、P21、P24)

< 67 > 教育：教育方法の工夫、教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討

【県立大学】(P13、P22)

< 90 > 教育：喫煙による健康被害に関する啓発活動の推進

【県立大学】(P12、P21)

< 96 > 教育：就職情報の提供方法の改善、就職ガイダンスの充実

【県立大学】(P14、P22)

遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

- < 9 > 教育：大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実
【芸術大学】（P13、P25）
- <111> 研究：自己点検・評価の実施による研究・教育活動の改善
【芸術大学】（P14、P25）
- <122> 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加 全教員申請目標
【県立大学】（P13、P22）

（3）「地域連携の強化」

○ 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

- <160> 地域連携：リカレント教育に対応した社会人教育の推進
【県立大学】（P12、P21）
- <162> 地域連携：実践セミナー・研究会等の開催による看護職の資質の向上
【県立大学】（P12、P21）
- <166> 地域連携：学術交流協定校の拡充、海外大学・研究機関との学術交流の
推進
【県立大学】【芸術大学】（P14、P23、P25）

遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

- <165> 地域連携：リカレント教育の実施の検討
【芸術大学】（P14、P25）

3 評価に当たっての意見、指摘等

業務実績報告書は、過去2年の報告書と比較し、簡潔・明瞭に記載するとともに、表やグラフ等を用いるなどわかりやすい報告書の作成に努められたことを高く評価する。

今後とも、具体的な記述に心がけ、大学間での表記に統一性をもちせるとともに、計画に対する措置や達成状況などをわかりやすく記載することにより、県民への説明責任を十分果たされることを期待する。

なお、中期目標期間6年間の前半3年間を経過し、中期計画はおおむね順調に実施していると判断できる。しかしながら、公平な処遇を実現する人事制度の構築（中期計画198）については、一定の進捗は認められるものの、教員の人事評価制度ははまだ構築されておらず、残された計画期間において計画達成のため、これまで以上の努力が必要と考えられる。

<参考>

中期計画（平成19年度～平成24年度）大項目一覧	中期計画	
	小項目数	うち21年度 年度計画対象 小項目数
第1 大学の教育研究等の質の向上	170	156
第2 業務運営の改善及び効率化	36	27
第3 財務内容の改善	15	15
第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	9	9
第5 その他業務運営	16	13
計	246	220

大項目評価

1 業務運営の改善及び効率化に関する項目

(1) 評価結果

[小項目評価]

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
「B」おおむね順調に実施している。(～ が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	2	28	0	30
評価対象項目数		1(1)	26(2)		27(3)
運営体制の改善			9(2)		9(2)
教育研究組織の見直し			3		3
人事の適正化		1(1)	10		11(1)
事務等の効率化及び合理化			4		4

(参考) 20年度評価

「B」おおむね順調に実施している

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。

<171>運営体制の改善：財政基盤の強化

<181>運営体制の改善：法人固有職員の登用

<198>人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]
なし

イ 遅れている項目[評価]
なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<198> 人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築

[法人自己評価 評価委員会評価]

理由

中期計画では、19年度から教職員のインセンティブを高めるため、努力と勤務実績に基づく公平な処遇を実現する人事制度を構築することとしており、事務職員については実現され、一定の進捗は認められる。しかし、教員についてはいまだ実現されていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 評価に当たった意見、指摘等

<191> 人事の適正化：事務職員の他の大学法人との人事交流の可能性の検討

他の大学法人との人事交流については、19年度から検討を開始しているが、3年を経過しても実現には至っておらず、早急に試験的な実施の可能性を検討するべきである。

<197> 人事の適正化：年俸制の導入

中期計画では、任期制の導入に併せ年俸制の導入を検討することとなっているが、実績では任期制が既に導入されているにもかかわらず、年俸制の導入については、具体化が保留されており、今後は速やかに試行的導入を含めて検討するべきである。

<199> 人事の適正化：教員に対する教育活動、研究活動、学内運営、社会貢献の4分野を要素とする評価システムの構築

教員に対する評価システムはいまだ構築されておらず、今後は試行的導入を図ることが望ましい。

<203> 事務等の効率化及び合理化：アウトソーシング導入

中期計画<215>に対する評価でも述べているとおり、大学の業務全般についてアウトソーシングの可能性を検討することが望ましい。

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

[小項目評価]

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべてⅢ～Ⅳ)
「B」おおむね順調に実施している。 (～が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	1	14	1	16
評価対象項目数		1	13(1)	1	15(1)
外部資金その他の自己収入の増加			6(1)	1	7(1)
経費の抑制		1	5		6
資産の運用管理の改善			2		2

(参考) 20年度評価

「B」おおむね順調に実施している

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。

<209>外部研究資金・自己収入：積極的な学生募集による学生納付金の確保

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]

<210> 外部研究資金・自己収入：学生納付金の納入率の向上

学生納付金の納入率 99.9%を維持し、口座振替方式の拡充及び普及に努めた。

イ 遅れている項目[評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<215> 経費の抑制：アウトソーシングの可能性の検討

[法人自己評価 評価委員会評価]

理由

図書館業務において、人材派遣から契約職員に変更したことに伴い、法人化以降、新たにアウトソーシングを実施する業務がなくなったことは、各業務のアウトソーシングに対する適否を十分に検討していなかったこととなり、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 評価に当たったの意見、指摘等

<211> 外部研究資金・自己収入：授業料免除制度の見直し

国立大学法人が実施する授業料減免制度と比較して、手厚い減免制度となっているが、その制度の妥当性についてしっかりと検討すべきである。

<213> 外部研究資金・自己収入：大学の特性を活用した自己収入増加の方策の検討

公開講座等の開催は、地域貢献の事業であるが、自己収入を増加させるための事業とは言えないため、自己収入増加の方策を検討する中期計画に基づく年度計画に記載することは適当ではない。

3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

[小項目評価]

	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	10	0	10
評価対象項目数			9(1)		9(1)
評価の充実			6		6
情報公開等の推進			3(1)		3(1)

(参考) 20年度評価

「B」おおむね順調に実施している

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。
<228>情報公開等の推進：県民・地域への積極的な情報発信

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]]
なし

イ 遅れている項目[評価]]
なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

4 その他業務運営に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

[小項目評価]

	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	13	0	13
評価対象項目数			13		13
施設・設備の活用等			2		2
安全管理			7		7
社会的責任			4		4

(参考) 20年度評価
「A」順調に実施している

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]
なし

イ 遅れている項目[評価]
なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

5 大学の教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】
 法人全体及び各大学について、いずれも
 おおむね順調に実施していることを確認

(参考) 20年度評価
【事業の外形的・客観的な進捗状況】
 おおむね順調に実施していることを確認

* 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	1	2	1	4	2.6
	県大	0	1	0	1	0.8
	芸大	1	1	1	3	3.4
年度計画を十分に実施している	総合	87	19	40	146	93.6
	県大	70	18	29	117	92.9
	芸大	46	13	22	81	92.0
年度計画を上回って実施している	総合	3	0	3	6	3.8
	県大	5	0	3	8	6.3
	芸大	3	0	1	4	4.6
計	総合	91	21	44	156	100.0
	県大	75	19	32	126	100.0
	芸大	50	14	24	88	100.0

1つの大学が対応する項目と複数の大学が対応する項目があるため、総合の項目数は各大学の項目数と一致しない。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 (年度計画を上回って実施している)

< 18 > 教育：入学者選抜方法の改善

【芸術大学】

年度計画での入学者選抜方法の改善に加え、実績では美術学部デザイン専攻の入学試験の一次試験を廃止し、受験者の負担を軽減する等の合理化を進めた。

< 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】

入試広報室の職員を 1 名増員し、事務体制の強化を図るとともに、高校に出向いての説明会や出張講義を前年に比較し多く開催した。

【芸術大学】

高校に出向いての説明会や出張講義を前年に比較し多く開催した。

< 90 > 教育：喫煙による健康被害に関する啓発活動の推進

【県立大学】

敷地内全面禁煙への準備を進める年度計画に対し、全学喫煙禁止まで実施した。

< 160 > 地域連携：リカレント教育に対応した社会人教育の推進

【県立大学】

社会人教育の推進を図る年度計画に対し、大学院における履修制度の見直しまで実施し、大学院修士課程及び大学院博士前期課程において長期履修制度を導入した。

リカレント教育 (学習) … 学校を修了して社会に出た人が、必要に応じて働きながらまたは仕事を離れて、再び学校で教育を受けることを指す。(Recurrent は英語で「循環する」「回帰する」「還流する」を意味する)

< 162 > 地域連携：実践セミナー・研究会等の開催による看護職の資質の向上

【県立大学】

年度計画で実施することとした研修会に加えて、各種の実践的なセミナー等まで開催した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

<122> 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加 全教員申請目標

【県立大学】

科学研究費補助金等の申請件数、申請率ともに微増しているものの、中期計画の教員の全員申請という目標には、程遠い申請率であった。

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

< 3 > 教育：大学間教員相互派遣による教養科目の充実

【2大学共通】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

年度計画では「選択科目の拡充に向けた教員の相互派遣・連携強化のあり方を検討する」としているところ、実績では教員の相互派遣の実施にまで至ったことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

< 9 > 教育：大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

中期計画では、教員の相互派遣により教育職員養成課程の充実に図るとしているにもかかわらず、実績で教員の相互派遣を実施しないと決定したことは、中期計画と矛盾するものであり、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 67 > 教育：教育方法の工夫、教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討

【県立大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

学生本人への教育達成度を明示する年度計画に対し、統一テストによる英語力測定を行い、その達成度を学生本人に明示するだけでなく、成績評価にまで反映させたことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

< 96 > 教育：就職情報の提供方法の改善、就職ガイダンスの充実

【県立大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

情報提供や相談により、就職活動支援の充実を図る年度計画になっているが、教員志望の学生に対し、教員採用試験説明会・セミナーの開催及び採用試験合格等の調査まで実施したことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

<111> 研究：自己点検・評価の実施による研究・教育活動の改善

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

年度計画では自己点検評価について広く一般に公開するとしているにもかかわらず、実績では学内ホームページでの公開にとどまり、広く一般に公開していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<165> 地域連携：リカレント教育の実施の検討

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

年度計画では能力別検定を試行的に実施するとあるが、実績では能力別検定を実施していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<166> 地域連携：学术交流協定校の拡充、海外大学・研究機関との学术交流の推進

【県立大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

ニューヨーク州立大学バッファロー校との協定締結に向けて、英語科目の単位互換の可能性を検討する年度計画に対し、協定締結にまで至ったことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

交換留学制度を盛り込んだ協定締結に向けた取組を推進する年度計画に対し、タイのシルパコーン大学、ドイツのケルン音楽大学等と協定締結の合意まで取り付けたことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

(3) 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

<102> 教育：キャリアデザインの支援の充実及び就職希望者の就職率
100%目標

【芸術大学】

21年度は、予想を上回る厳しい景気状況等が影響し、結果として前年を下回る就職率となったが、引き続き、就職ガイダンス、就職相談に加え、教員による企業訪問など新たな手法を取り入れた総合的かつ効果的な就職支援を実施することにより、中期計画や年度計画で目標とした就職率100パーセントの達成に向けて努力することが望ましい。

<112> 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価

【県立大学】

学内相互評価については、「教員の自己点検、自己評価」という冊子を発行する等、一定の進捗はみられるものの、教員の学内相互評価には至っていないため、学内相互評価の実現に向けて一層の努力をするべきである。

また、中期計画で実施することとしている「定期的な学外評価」は、法令で実施が義務付けられている認証評価より、むしろ大学が自ら実施する独自の学外評価を意味しているものと解される。したがって、大学が独自に企画して実施する学外評価を早急に検討するべきである。

【芸術大学】

中期計画で実施することとしている「定期的な学外評価」は、法令で実施が義務付けられている認証評価より、むしろ大学が自ら実施する独自の学外評価を意味しているものと解される。したがって、大学が独自に企画して実施する学外評価を早急に検討するべきである。

また、自己点検・評価シートの学内ホームページへの掲載をもって、学内相互評価の代替とすることは不十分であり、芸術大学の特性を踏まえた学内相互評価のあり方について検討を進め、早急に実施することが望ましい。

<122> 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加 全教員申請目標

【県立大学】

今後は過去3年間の科学研究費補助金等の申請結果を踏まえ、申請数増加に向けて構造的な問題の検証をする必要があると考える。

<130> 地域連携：県や市町村の審議会や委員会への参加等による行政への助言・提言

【県立大学】【芸術大学】

どの教員が、どのような審議会、専門委員会の委員等に就任しているのか、ホームページなどで公表することが望ましい。

<154> 地域連携：子育て支援、障害者支援、健康増進支援、在日外国人支援等を目的とするNPO等各種団体との連携の促進

【県立大学】

NPO法人や各種団体との連携の相手方を明確にしたうえで、活動実績や協定締結実績などをホームページ等で広く広報することが望ましい。

<155> 地域連携：芸術、芸術教育を目的とするNPO等各種団体との連携の促進

【芸術大学】

NPO法人や各種団体との連携の相手方を明確にしたうえで、活動実績や協定締結実績などをホームページ等で広く広報することが望ましい。

<166> 地域連携：学術交流協定校の拡充、海外大学・研究機関との学術交流の推進

【県立大学】【芸術大学】

学術交流に相応しい大学との交流の推進が大前提であるが、県立大学の特性を活かし、県が友好提携する地域の大学と積極的な交流を図り、国際交流のネットワークづくりを検討することが望ましい。

< 参考資料 >

愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施に当たっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を

記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとに ~ ランクの4段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
	年度計画を上回って実施している。
	年度計画を十分に実施している。
	年度計画を十分には実施していない。
	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべて ~)
B	おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
C	十分に実施できていない。(~ が9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

なお、中期目標の基本的な目標である「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」、「自主・自律的な大学運営の実現」に向けた取組を積極的に評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。

6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

1 県立大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	1	0	1	0.8
年度計画を十分に実施している	70	18	29	117	92.9
年度計画を上回って実施している	5	0	3	8	6.3
計	75	19	32	126	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

- < 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実
入試広報室の職員を1名増員し、事務体制の強化を図るとともに、高校に出向いての説明会や出張講義を前年に比較し多く開催した。
- < 90 > 教育：喫煙による健康被害に関する啓発活動の推進
敷地内全面禁煙への準備を進める年度計画に対し、全学喫煙禁止まで実施した。
- < 160 > 地域連携：リカレント教育に対応した社会人教育の推進
社会人教育の推進を図る年度計画に対し、大学院における履修制度の見直しまで実施し、大学院修士課程及び大学院博士前期課程において長期履修制度を導入した。

リカレント教育（学習）…学校を修了して社会に出た人が、必要に応じて働きながらまたは仕事を離れて、再び学校で教育を受けることを指す。（Recurrent は英語で「循環する」「回帰する」「還流する」を意味する）

- < 162 > 地域連携：実践セミナー・研究会等の開催による看護職の資質の向上
年度計画で実施することとした研修会に加えて、各種の実践的なセミナー等まで開催した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

- <122> 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加 全教員申請目標
科学研究費補助金等の申請件数、申請率ともに微増しているものの、中期計画の教員の全員申請という目標には、程遠い申請率であった。

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

- < 3 > 教育：大学間教員相互派遣による教養科目の充実
[自己点検「年度計画を十分に実施している」
評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

年度計画では「選択科目の拡充に向けた教員の相互派遣・連携強化のあり方を検討する」としているところ、実績では教員の相互派遣の実施にまで至ったことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

- < 67 > 教育：教育方法の工夫、教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討
[自己点検「年度計画を十分に実施している」
評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

学生本人への教育達成度を明示する年度計画に対し、統一テストによる英語力測定を行い、その達成度を学生本人に明示するだけでなく、成績評価にまで反映させたことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

- < 96 > 教育：就職情報の提供方法の改善、就職ガイダンスの充実
[自己点検「年度計画を十分に実施している」
評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

情報提供や相談により、就職活動支援の充実を図る年度計画になっているが、教員志望の学生に対し、教員採用試験説明会・セミナーの開催及び採用試験合格等の調査まで実施したことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

<166> 地域連携：学術交流協定校の拡充、海外大学・研究機関との学術交流の推進

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

ニューヨーク州立大学バッファロー校との協定締結に向けて、英語科目の単位互換の可能性を検討する年度計画に対し、協定締結にまで至ったことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

2 芸術大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	1	1	1	3	3.4
年度計画を十分に実施している	46	13	22	81	92.0
年度計画を上回って実施している	3	0	1	4	4.6
計	50	14	24	88	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

< 18 > 教育：入学者選抜方法の改善

年度計画での入学者選抜方法の改善に加え、実績では美術学部デザイン専攻の入学試験の一次試験を廃止し、受験者の負担を軽減する等の合理化を進めた。

< 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実

高校に出向いての説明会や出張講義を前年に比較し多く開催した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

なし

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

< 3 > 教育：大学間教員相互派遣による教養科目の充実

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

年度計画では「選択科目の拡充に向けた教員の相互派遣・連携強化のあり方を検討する」としているところ、実績では教員の相互派遣の実施にまで至ったことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

< 9 > 教育：大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

中期計画では、教員の相互派遣により教育職員養成課程の充実を図るとしているにもかかわらず、実績で教員の相互派遣を実施しないと決定したことは、中期計画と矛盾するものであり、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<111> 研究：自己点検・評価の実施による研究・教育活動の改善

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

年度計画では自己点検評価について広く一般に公開するとしているにもかかわらず、実績では学内ホームページでの公開にとどまり、広く一般に公開していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<165> 地域連携：リカレント教育の実施の検討

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

年度計画では能力別検定を試行的に実施するとあるが、実績では能力別検定を実施していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<166> 地域連携：学术交流協定校の拡充、海外大学・研究機関との学术交流の推進

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

交換留学制度を盛り込んだ協定締結に向けた取組を推進する年度計画に対し、タイのシルパコーン大学、ドイツのケルン音楽大学等と協定締結の合意まで取り付けたことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。